

SAMPLE

お申し込み >

試読 >



フェアな価格 確かな信頼

ローリーラック

Lorry Rack

☆RIM LORRY RACK PRICE INTELLIGENCE DAILY

★No. 6107 Feb 28 2024

Copyright(C) 2024 RIM Intelligence Co. All rights reserved.

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

「4リム価格」は登録商標です 登録番号・第5660925号

「リムラック価格」は登録商標です 登録番号・第5660926号

◎お知らせ

○季刊誌『エネルギー通信』第19号発売のお知らせ

リム情報開発は2月20日、エネルギーの「いま」をまとめて把握できる季刊誌『エネルギー通信』第19号を発行しました。今号ではJR東海の水素動力車両に関する特集記事や、脱炭素化に向けて先進的な取り組みを見せるテスHDとシナネンへのインタビュー記事を掲載。化石燃料のデータ集や分析記事に加えて、インドと米国のアンモニア事情など国際的なトピックスも取り上げており、業界の全体像を把握できること請け合いです。『エネルギー通信』第19号で、最新の動向をぜひご確認ください。

『エネルギー通信』は、WEBで閲覧いただくことができます。お申込み・お問い合わせはこちら

URL: <https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/eneletter/>

エネルギー通信チーム TEL: 03-3552-2411 / Email: info@rim-intelligence.co.jp

○リム創業40周年記念本『エネルギーの歩み』発売のお知らせ

リム情報開発株式会社は2024年2月、創業40周年を記念し、『エネルギーの歩み』を刊行いたしました。石油メジャーの誕生から脱炭素化に至るまで、エネルギーの歴史をわかりやすくひも解くとともに、リムならではの市況解説もふまえた充実の一冊です。原油、石油製品、LNG、LPGの貿易統計に加え、年表も資料として掲載しており、業務や勉強に幅広く利用していただけます。この機会にぜひお申し込みください。

定価: 33,000円(税込) ※送料が別途かかります。お申し込みは以下のリンクから(サンプルあり)。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/40book/>

【お問い合わせ先】リム情報開発株式会社 / 電話: 03-3552-2411 / E-mail: info@rim-intelligence.co.jp

◎リムエネルギー総合指数22種(レックス22、2010年平均=100)

28日のレックス22は、前日から1.95ポイント上昇し172.76です

-----リムレポートのご紹介-----

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。

各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/report/>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG LNG
石油化学	ポリオレフィン	電力
バイオマス(週刊)	デイリーデータ	Rim Data File
クリーンエネルギー(週刊)	CROSS VIEW軽油/重油	エネルギー通信

東京時間2024年2月28日水曜日17時30分<Assessment Closing Time>

◎東名阪製油所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	千葉	中値	前日比	川崎	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン#	131.8~132.3	132.05	-0.20	131.8~132.4	132.10	-0.15	132.08	-0.17
ガソリン	78.0~78.5	78.25	-0.20	78.0~78.6	78.30	-0.15	78.28	-0.17
灯油	79.1~79.9	79.50	-1.20	79.1~79.9	79.50	-1.20	79.50	-1.20
課税軽油	77.0~77.8	77.40	-1.25	77.0~77.8	77.40	-1.25	77.40	-1.25
未課税軽油	78.3~78.7	78.50	-0.90	78.3~78.7	78.50	-0.90	78.50	-0.90
A重油	77.7~78.5	78.10	-1.50	77.7~78.5	78.10	-1.35	78.10	-1.43
LSA重油	78.2~79.0	78.60	-1.50	78.2~79.0	78.60	-1.35	78.60	-1.43

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	4リム中値	前日比
ガソリン#	131.0~132.0	131.50	-0.55	131.2~132.2	131.70	-0.10	131.84	-0.25
ガソリン	77.2~78.2	77.70	-0.55	77.4~78.4	77.90	-0.10	78.04	-0.25
灯油	79.3~80.3	79.80	-0.85	79.8~80.3	80.05	-0.60	79.71	-0.97
課税軽油	77.7~78.4	78.05	-0.75	77.7~78.5	78.10	-0.30	77.74	-0.89
未課税軽油	78.5~79.4	78.95	-0.75	79.8~80.0	79.90	-0.80	78.96	-0.84
A重油	77.7~78.5	78.10	-1.65	78.2~78.9	78.55	-1.35	78.21	-1.47
LSA重油	78.2~79.0	78.60	-1.65	78.7~79.4	79.05	-1.35	78.71	-1.47

◎東名阪油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	八潮	中値	前日比	横浜	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン#	134.0~134.7	134.35	-0.20	133.5~134.5	134.00	0.00	134.18	-0.10
ガソリン	80.2~80.9	80.55	-0.20	79.7~80.7	80.20	0.00	80.38	-0.10
灯油	81.0~81.5	81.25	0.00	80.3~81.0	80.65	-0.85	80.95	-0.43
軽油	80.5~81.5	81.00	0.00	78.0~78.8	78.40	-1.10	79.70	-0.55
LSA重油	80.5~81.0	80.75	0.00	79.5~80.5	80.00	-1.00	80.38	-0.50

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	油槽所中値	前日比
ガソリン#	131.8~132.3	132.05	-0.20	131.5~132.3	131.90	0.00	133.08	-0.10
ガソリン	78.0~78.5	78.25	-0.20	77.7~78.5	78.10	0.00	79.28	-0.10
灯油	79.7~80.3	80.00	-1.00	80.5~81.0	80.75	0.00	80.66	-0.47
軽油	78.1~79.1	78.60	-1.20	78.5~79.5	79.00	-0.20	79.25	-0.63
LSA重油	79.5~80.5	80.00	-2.75	78.9~79.6	79.25	-1.35	80.00	-1.28

※ガソリン#は揮発油税込み価格、ガソリンは揮発油税抜き価格

※前日比は中値ベース

※中値は小数点第3位を四捨五入

※製油所の京浜中値は千葉・川崎中値の単純平均値

※4リム中値は千葉・川崎・中京・阪神製油所の単純平均値

※油槽所の京浜中値は八潮、横浜中値の単純平均値

※油槽所中値は八潮、横浜、中京、阪神の単純平均値

※4リム中値を使用した月間平均値はスペシャルコンテンツの4製油所月間平均値と誤差が生じる場合があります

※公式のリム価格月間平均値はスペシャルコンテンツ掲載の数値となります

※ローリーラック価格、輸入採算価格、海陸市況格差、先物のガソリンはレギュラーが対象で揮発油税53.8円を含まず

※軽油は軽油引取り税32.1円を含まず

※原油輸入平均CIF価格の r は修正

※為替は三菱UFJ銀行が午前10時30分に発表する数値を使用

◎東名阪製油所・油槽所出し中値平均値 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	京浜地区	前日比	中京地区	前日比	阪神地区	前日比
ガソリン#	133.13	-0.13	131.78	-0.37	131.80	-0.05
ガソリン	79.33	-0.13	77.98	-0.37	78.00	-0.05
灯油	80.23	-0.81	79.90	-0.93	80.40	-0.30
軽油	78.53	-0.90	78.53	-0.90	79.00	-0.43
A重油	78.10	-1.43	78.10	-1.65	78.55	-1.35
LSA重油	79.49	-0.96	79.30	-2.20	79.15	-1.35

※ガソリン#は揮発油税込み価格、ガソリンは揮発油税抜き価格

※A重油は製油所平均値

◎その他の製油所・油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	北海道	中値	前日比	仙台	中値	前日比
ガソリン#	133.7~134.3	134.00	-1.40	132.5~133.0	132.75	-0.75
ガソリン	79.9~80.5	80.20	-1.40	78.7~79.2	78.95	-0.75
灯油	80.6~81.6	81.10	-1.40	79.3~79.8	79.55	-1.45
軽油	79.6~79.9	79.75	-1.30	78.3~78.8	78.55	-1.00
A重油	79.0~79.4	79.20	-1.45	78.1~78.5	78.30	-1.35
LSA重油	-	-	-	78.6~79.0	78.80	-1.35

油種	四国	中値	前日比	福岡	中値	前日比
ガソリン#	132.5~133.1	132.80	0.00	132.2~132.8	132.50	-0.75
ガソリン	78.7~79.3	79.00	0.00	78.4~79.0	78.70	-0.75
灯油	80.1~80.6	80.35	0.00	81.0~81.5	81.25	-0.90
軽油	79.0~79.5	79.25	+0.50	79.5~80.0	79.75	-1.30
A重油	78.8~79.3	79.05	-0.45	79.6~80.0	79.80	-1.70
LSA重油	79.3~79.8	79.55	-0.45	80.1~80.5	80.30	-1.70

※ガソリン#は揮発油税込み価格、ガソリンは揮発油税抜き価格

◎SS向けスポット卸市況 (円/リットル、ローリー届け、1.5~2円運賃圏)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
ガソリン	133.0~134.0	-0.3	132.5~133.5	-0.5	133.0~134.0	0.0
灯油	80.5~81.5	-1.8	81.0~82.0	-1.0	81.5~82.5	-1.0
軽油	112.0~113.0	-0.5	111.5~112.5	-0.5	112.0~113.0	-0.5

◎ユーザー向け産業燃料油市況 (円/リットル、ローリー届け、1.5~2円以下運賃圏、大口向け、週決め)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
灯油	80.0~81.0	-2.0	81.0~82.0	-1.0	81.5~82.5	-0.5
軽油	111.0~112.0	-1.0	111.0~112.0	-0.5	111.0~112.0	-1.0
A重油	79.0~80.0	-1.3	79.0~80.0	-1.0	79.5~80.5	-1.5
LSA重油	79.5~80.5	-1.3	79.5~80.5	-1.0	80.0~81.0	-1.5

※前日比は中値ベース

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の京浜地区は製油所の京浜中値と油槽所の京浜中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の中京地区は製油所の中京中値と油槽所の中京中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の阪神地区は製油所の阪神中値と油槽所の阪神中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の軽油は製油所の課税、未課税、油槽所の単純平均値

※SS向けスポット卸市況およびユーザー向け産業燃料油市況は揮発油税・軽油引取り税を含む

※中値は小数点第3位を四捨五入

◎輸入採算価格（SR船型、韓国出し、関税・石油石炭税込、円/kl）

	北海道	前日比	京浜	前日比	中京	前日比	関門	前日比
ガソリン	102,029	-1,058	101,362	-1,057	101,076	-1,057	100,695	-1,056
灯油	107,349	-1,541	106,682	-1,541	106,397	-1,539	106,015	-1,540
軽油	108,516	-1,542	107,849	-1,541	107,563	-1,541	107,182	-1,540
LSA重油	99,772	-1,537	99,105	-1,536	98,819	-1,536	98,438	-1,535

※SR船型による輸入、LSA重油は免税ベース、軽油は硫黄分10ppm

※輸入採算価格はリムアジア製品レポート掲載のシンガポール市況（ペーパー）の3月限をベース

◎海陸市況格差（陸上4製油所平均-海上バージ市況）

ガソリン	-1.96	灯油	+0.21	未課税軽油	-3.54
A重油	-1.49	LSA重油	-1.49		

※4製油所平均=千葉、川崎、中京、阪神

◎指標原油

WTI (NYMEX	4月限,	\$/bbl,	2/27	close)	78.87	+1.29
WTI (NYMEX ACCESS	4月限,	\$/bbl,	2/28	5:00pm 東京時間)	78.42	-0.45
ドバイ (ペーパーズワップ,		\$/bbl,	2/28	東京夕刻)	82.55 ~ 82.59	+0.78
ドバイ (ペーパーズワップ,		円/kl,	2/28	東京夕刻)	78,684	+661
ドバイ (ペーパーズワップ,		円/kl,	2/22~2/28平均)		78,043	+225
ドバイ (ペーパーズワップ,		円/kl,	2/14~2/20平均)		78,108	+299
東商取ドバイ原油当限		(円/kl,	2/28	引け)	75,980	+40

◎原油輸入平均CIF価格（JCC、円/kl、財務省）

23/12/01-31	83,476r	24/01/01-31	77,649r	24/02/01-29	3月21日発表予定
23/12/01-10	86,385	24/01/01-10	77,249	24/02/01-10	78,118
23/12/11-20	83,018	24/01/11-20	78,018	24/02/11-20	3月7日発表予定
23/12/21-31	81,537	24/01/21-31	77,510	24/02/21-29	3月21日発表予定

◎Rim JCC予想値（円/kl）

24/2月	78,720	±0	24/3月	78,030	+160	24/4月	78,980	+190
-------	--------	----	-------	--------	------	-------	--------	------

◎東商取バージ先物・日中取引(東京湾岸製油所・油槽所出しバージ取り、円/リットル)

ガソリン		始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
	4月限	-	-	-	81.00	-	-	
	5月限	-	-	-	81.00	-	-	
	6月限	-	-	-	81.00	-	-	
	7月限	-	-	-	81.00	-	-	
	8月限	-	-	-	81.00	-	-	
	9月限	-	-	-	81.00	-	-	
	合計						-	
灯油								
	4月限	-	-	-	82.50	-	-	
	5月限	-	-	-	82.50	-	-	
	6月限	-	-	-	82.50	-	-	
	7月限	-	-	-	82.50	-	-	
	8月限	-	-	-	82.50	-	-	
	9月限	-	-	-	82.50	-	-	
	合計						-	
軽油								
	4月限	-	-	-	83.10	+0.10	-	
	5月限	-	-	-	82.90	+0.10	-	
	6月限	-	-	-	82.70	+0.10	-	
	7月限	-	-	-	82.50	+0.10	-	
	8月限	-	-	-	82.40	+0.10	-	
	9月限	-	-	-	82.10	+0.10	-	
	合計						-	
原油								
	2月限	76.06	76.06	75.98	75.98	+0.04	10	
	3月限	77.19	77.42	77.16	77.42	+0.92	29	取組高 (2/27)
	4月限	76.33	76.51	76.32	76.49	+0.63	19	ガソリン 売 0 買 0
	5月限	75.33	75.60	75.33	75.60	+0.64	42	灯油 売 0 買 0
	6月限	74.40	74.65	74.31	74.63	+0.59	280	軽油 売 0 買 0
	7月限	73.46	73.75	73.36	73.73	+0.53	1,214	原油 売 48,370 買 48,370
	合計						1,594	1枚=50kl

◎東商取中京ローリー先物・日中取引(潮見および飛島油槽所出しローリー取り、円/リットル)

ガソリン		始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
	4月限	-	-	-	79.00	-	-	
	5月限	-	-	-	79.00	-	-	
	6月限	-	-	-	79.00	-	-	
	7月限	-	-	-	79.00	-	-	
	8月限	-	-	-	79.00	-	-	
	9月限	-	-	-	79.00	-	-	
	合計						-	
灯油								
	4月限	-	-	-	80.50	-	-	
	5月限	-	-	-	80.50	-	-	
	6月限	-	-	-	80.50	-	-	
	7月限	-	-	-	80.50	-	-	取組高 (2/27)
	8月限	-	-	-	80.50	-	-	ガソリン 売 0 買 0
	9月限	-	-	-	80.50	-	-	灯油 売 0 買 0
	合計						-	1枚=10kl

◎概況・トッパー停止状況=トッパー停止数・3基 停止率7.2%

○陸上ローリー市況

28日の東名阪4リム製油所出しは下振れ。元売り3社が系列仕切り価格を引き下げたため、卸業者の多くが販価を見直した。ガソリンは先行値下げも浸透済みのため、千葉と川崎、阪神は前日比0.1～0.2円の下げ。中京はやや下げが大きく、0.55円の値下がりとなった。地方出荷地も総じて軟調。

ENEOSと出光興産、コスモ石油マーケティングは29日～3月6日の系列仕切り価格を前週から実質1.8円引き下げると関係各社に通知した。実質引き下げは4週ぶり。複数の市場関係者によると、コストベースは1.5円の下げに対し、補助金が前週から0.3円増額されたため、実質仕切り価格は1.8円の下げとなった。

○ドバイ原油市況

28日の価格動向

ドバイ価格(東京午後5時時点)	82.55～82.59ドル	前日比0.78ドル高
円建てドバイ価格	82.7円	前日比0.6円高
4月の国内製品コスト推定値	82.6円	3月平均比2.1円高
2月27日(火)～3月4日(月)平均推定値	82.6円	前週比0.5円高
2月28日(水)～3月5日(火)平均推定値	82.7円	前週比0.9円高
2月の調整金(アラブ・ライト)	前月比-2.00ドル	前月比-1.8円程度
3月の調整金(アラブ・ライト)	前月比横ばい	前月比横ばい

※ドバイ原油:リム情報開発「原油・コンデンサート」レポート掲載のペーパースワップ価格を参照

※4月の国内製品コスト推定値:2月26日～3月25日が対象、為替:三菱UFJ銀行TTS、石油石炭税込み

※平均推定値:国内の土日祝日は対象から除外

○元売り市中買い

民族系最大手、民族系大手、民族系、中堅元売りは28日、どの油種にも買い気を示さなかったようだ。一方海上では、最大手元売り向けとみられるガソリン3,900klあまりの成約があった。

2月の民族系大手元売りの市中調達総量は、ガソリン2,900kl以上、灯油1,000kl以上となるもよう。

○在庫

石油連盟によると、24日時点の全国在庫は全油種で増加した。ガソリンが前年比6.6%増の180万3,404klとなった。灯油は同25%増の167万2,932kl。軽油は同27.2%増の157万6,961kl。A重油は同7.4%増の42万1,710kl、LSA重油は同16.2%増の33万5,027klだった。

東日本では灯油の在庫増加が顕著。前年比28.1%増の122万8,968klだ。特に19～20日は異例の高温となったことも、在庫の増加に寄与していそう。18～24日までの出荷量も前年比64.6%の減少となっている。一方、西日本の在庫は軽油が前年比46.7%と大きく積み上がっている。自動車メーカーの工場稼働停止や除雪需要の減退など、様々な要因が考えられる。また、中国向けのコンテナ運搬需要が低迷しており、これを軽油需要の減退として指摘する市場関係者もいる。

輸出量はガソリンが前年比7.4%増の15万1,462kl、軽油が同19.8%減の17万1,658klだった。

○2～5月のアセスメント評価対象について

- ① 2月最終発刊日の29日は木曜日となるため、アセスメントは通常どおり翌日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。
- ② 3月最終発刊日の29日は金曜日となるため、アセスメントは4月1日月曜日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。
- ③ 4月最終発刊日の30日は火曜日となるため、アセスメントは通常どおり翌日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。
- ④ GW期間の平日4月30日、5月1～2日は通常どおりレポートを発刊いたします。

◎北海道(苫小牧・石狩)

○概況

全油種で下落。ENEOS、出光興産、コスモ石油マーケティングが29日以降の仕切り価格を実質的に1.8円引き下げたことを受けた。販売余力を残した業者は販価を下方修正し、受注喚起を図っている。ただ、月内の商談から撤退した業者も点在。さらに月内商談最終日で買い気も弱く、商いの閑散も伝わった。

○ガソリン

【苫小牧】前日比1.4円安の79.9～80.5円(揮発油税込み133.7～134.3円)。

大幅下落。元売り各社が仕切り価格を実質的に1.8円引き下げたため、見積もりに下方修正を加えるディーラーが散見された。

29日渡しを対象に、最大手元売りルートで

広域ディーラーが133.7円の売唱えを示した。製油所出荷玉を扱う業者は134.3円までを提示し、買い気を探っている。在庫玉を扱う業者は135円台を提示していたが、相対的に割高感が生まれていた。

○灯油

【苫小牧・石狩】前日比1.4円安の80.6～81.6円。

続落。2月渡し商談最終日も販売枠の消化を狙った売り込みが残り、商談水準をさらに押し下げた。もっとも、月末で買い気を示す業者が少なく、商況は閑散としているようだ。

「安値を追いかけてもオーダーが大量に入るわけではない」(広域系)との声も。また、月内の販売枠消化を終えて商いから撤退した業者も散見。「卸業者ごとの販売に濃淡がある」(商社系)との指摘も聞かれた。

2月渡しを振り返り、極端な寒暖差を指摘するディーラーが散見。2月も一定の受注はあったものの「タイトになることはなかった」

(広域系)との声もあがった。

苫小牧の29日渡しは、製油所出荷玉や在庫玉を扱う複数の業者が80.6円を提示。このほか81～81.6円と81円台で買い気を探る業者も多かった。向け先によっては80.6円割れの売り物もあるようだが、個別交渉の側面が強い。また81.6円超えの玉に買い気を示す業者は限定されそうだった。

石狩の29日渡しの取引では、大手ディーラーが提示する84円台前半の売唱えが伝わった。苫小牧と石狩との価格差は広がったままだ。

【届け市況】現時点では様子見に退く業者が大多数ながら、日中の段階では足元のスポッ

ト市況をベースに届け83円前後の売りアイデアが聞かれた。

【気温】札幌の15時時点の気温はマイナス

2.8度。最高気温はマイナス1.6度、最低気温はマイナス5.1度。最高気温は最も寒い時期を下回るほどだ。積雪は77センチメートル。

○軽油

【苫小牧】前日比1.3円安の79.6～79.9円。

下落。仕切り価格の引き下げを受けて、販価を下方修正したディーラーが多かった。前日の時点で売り圧力が加わっていたため、1.8円以内の下落にとどまった。

29日渡しの課税玉では、製油所出荷玉を扱う業者などが79.6～79.9円を打ち出した。他

社玉をベースに販価を組み立てた業者は80円台を提示しているが、買い気を示した業者は見受けられず。

未課税玉では80.2～81.9円、82.4円の売唱えが製油所出荷ルートや在庫玉で散見された。

○重油

【苫小牧】A重油は79.0～79.4円と前日比1.45円安。

切り下がった。元売り各社が仕切り価格を引き下げたことで、販価を見直すディーラーが多かった。月内最終日でオーダーは閑散としているもよう。

29日渡しを対象に、製油所出荷玉を扱う業者を中心に79～79.4円の売唱えが示された。在庫玉を扱う業者は79円台後半を提示しているが、79円台後半はやや高値圏に位置しているもよう。79.4円までであれば、複数の業者が手当て可能と指摘している。

◎東北(仙台)

○概況

スポット流通玉市況は全面安。主要元売り3社の29日から適用される仕切りは実質1.8円の引き下げ。これに加えて月次での販売不振から29日期限で消化売りが残ったため、売り気を示すディーラーが下値を探っていた。

昨報のとおり、東西オイルターミナル小名浜では、レギュラーガソリンとLSA重油、JONET青森ではレギュラーガソリンの出荷規制されている。これに加えて、東西オイルターミナル八戸でレギュラーガソリンと軽油の出荷規制を複数ディーラーが出し元から通知を受けていた。小名浜は1日まで、青森と八戸は4日までとなっており、3月商談のスタートはガソリンのスポット市場で流通量が減りそうだ。

○ガソリン

【仙台】78.7～79.2円(揮発油税込み132.5～133.0円)と前日比0.75円安。

製油所出荷玉の商社系、広域ディーラーの29日期限の唱えは132.5～133円以上振れ。一部、民族系元売り玉元売り玉と見られる売り込みでは、132円台前半の取引も水面下で

散見されたが、買い気が乏しく、これらの取引が表立っている様子はなかった。半面、恒常的に売り気を示す油槽所出荷玉を扱うディーラーは133円以上に値取り姿勢を強めるなど、足元は気配探り優先されていた。

【青森・八戸】主要元売り玉、民族系元売り

玉を扱う卸業者の唱えの134～134.5円など、134円台前半が主流。OT出荷の民族系元売り玉、中堅元売り玉、旧外資系元売り玉では出

荷規制で価格提示を見送っているケースも目立ったが、民族系元売り玉では133.5円まで買い気を探る動きも散見された。

○灯油

【仙台】79.3～79.8円と前日比1.45円安。

製油所出荷の商社系、広域ディーラーの29日期限の唱えは79.3～79.8円以上と、79.5円中心に下振れ。

既報のとおり、暖冬による販売不振を背景にディーラーによっては出し元からの売り圧力が高く、書面通知を避けて相対でオーダーを取り込んで価格を後決めしているケースも複数浮上。書面で通知するといたずらに値下げ競争となるため、卸業者によってはこ

うした対応で受注しているケースもあった。

【青森・八戸】民族系最大手玉、旧外資系元売り玉、民族系元売り玉をベースに各社の唱えは81.5円前後に下振れ。売り気の強いディーラーが81円前後で探っており、仙台同様に相対の個別の取引では81円割れでオーダーを取り込んでいた。とくに民族系最大手元売り玉では仙台製油所に換算すると78.5円前後に相当する売りも出ており、仙台よりも卸業者間の競争が熾烈な様子だった。

○軽油

【仙台】78.3～78.8円と前日比1.0円安。

製油所出荷ルート of 商社系、広域ディーラーの29日期限の唱えは課税で78.3～78.8円以上。未課税を扱う商社系、広域ディーラーの唱え80円前後～82.4円。未課税では販売を手仕舞って様子探りの唱えに終始していたが、課税では消化目的に78.5円前後で受け渡

し数量に応じて交渉を進める動きが出ていた。

【青森・八戸】民族系最大手元売り玉、旧外資系元売り玉、民族系元売り玉の唱えは課税で80円前後～81円前後。未課税玉が81円台半ば～82円台半ば。

○重油

【仙台】A重油は78.1～78.5円、LSA重油は78.6～79.0円といずれも前日比1.35円安。

製油所出荷ルート of 商社系、広域ディーラーの29日期限の唱えは78.1～78.5円以上。複数広域ディーラーで売り気を示すところは78.5円以下で買い気を探り、灯油同様に相対での取引では78.1円までの売買を複数伝えた。

【青森・八戸】民族系最大手玉、旧外資系元

売り玉のディーラーの唱えは80円台半ば～81.5円前後。

【官公需入札】3月納めでは、22日に開札された弘前大学向けのA重油490.7klは届け82.6円、27日に開札された青森県立中央病院向けのA重油156klは届け81.3円で、いずれも北日本石油が落札した。

弘前大学向けは前月比0.3円高、青森県立中央病院向けは前月と同値でまとまった。

千葉、川崎ともに下振れ。元売り3社の系列仕切り価格が実質1.8円引き下がったため、卸業者の多くが販価を見直した。先行値下げに動いていた卸業者もいたため、油種によって下げ幅にばらつきが生じている。手持ち玉の消化が遅れた広域系の一部は値下げ幅が深かった。

○ガソリン

【千葉製油所】前日比0.2円安の78.0～78.5円(揮発油税込み131.8～132.3円)。

続落。月末を迎え、取引が一巡する卸業者も見受けられたものの、手持ち玉を残す卸業者がやや多かったようだ。民族系玉をベースとする広域系は132～132.2円、量販向けには131.8円まで対応した形跡がみられたほか、詳細は判然としないものの131円台半ばの出物を指摘する向きもいた。

調達枠を残す商社に手持ち業者が売り込みをかけ、132～132.5円の販価提示。132円台前半までは商談が進んだものの、132.5円の売唱えには難色を示したようだ。同業や小売業者向けの売唱えも132.2～132.4円のやり取りが伝えられ、市況を形成した。

そのほか、中堅元売り玉を残した地場系は132円で買い手の反応を探ったという。ただ、思いのほか反応は鈍めと伝えた。

元売りの陸上市中調達は浮上せず。2月は少なくとも1,000kl超の千葉玉を買い拾った形跡がある。

一方、先行して3月渡しに移行済みの海上市場ではこの日、3,900klの大口取引が成立した。売り手の詳細は判然としないものの、2月の状況を鑑みると、中堅元売り玉を得意とする広域系の一角が絡んだ可能性もある。

【八潮】前日比0.2円安の80.2～80.9円(同134.0～134.7円)。

広域系の一角は転送船の遅れなどもあり、前日の販価を据え置き、134.7円を維持。一方で地場系などは引き合いを入れた先には、製油所市況を鑑み若干値下げを含んだ134.2

円まで対応したようだ。

高崎ターミナルではこの日も133円台の出物が点在。月初めから八潮玉とイーブン、ないしは相対的に割安な値動きが多かった。民族系玉ベースとの声が複数から伝えられている。

【川崎製油所】前日比0.15円安の78.0～78.6円(同131.8～132.4円)。

下振れ。旧外資系出荷地では、民族系玉を取り扱う広域系が131.8～132円を複数に売りを打診するなど、千葉と同値で数量捌きに動いたようだ。旧外資系玉を取り扱う卸業者は132.4円の販価を維持で、次の材料待ち。

商社玉をベースとする地場系も132円台前半で声掛けした形跡も見られた。

近隣の根岸周辺でも132円台前半の出物が伝えられている。

【横浜】変わらずの79.7～80.7円(同133.5～134.5円)。

様子見。横浜ターミナル周辺は前日の市況133.5～134.5円を維持。3月以降、京浜地区で複数の製油所が定修を予定しているため、商社は市中調達を優先しているようだ。

【川崎・横浜平均】前日比0.1円安の133.1円。

【東商取】バージガソリン4月限は81円(同134.8円)で日中取引を終えた。原油3月限とのクラックスプレッドは5.02円。

【輸入実績】貿易統計によると、1月に輸入されたガソリンは約33万klだった。うち京浜地区には、横浜港に12万1,565klが荷揚げされている。元売りや商社が手掛けたとみられる。

○灯油

【千葉・川崎製油所】 前日比1.2円安の79.1～79.9円。

続落。仕切り価格の実質引き下げが響いた。2月は下旬に寒の戻りがあったものの、それまでの販売の出遅れを埋め合わせるほどの需要の伸びは限定的。元売りによる月次枠カットが入っていたなかでも最終的に需給のタイト感が生じなかった。

千葉、川崎出しの29日出荷分では旧外資系元売りルートで79.1～79.9円の売りが出ている。灯油はここにきて月次枠消化に苦慮する卸業者が見え隠れ。阪神など他の地域も含めて買い手の言い値ベースでの販売も一部生じた節がある。

また民族系最大手元売りルートでは79.5～79.7円、民族系元売りルートでは79.9円といった出物も点在。80円台の玉は競争力を欠いていた。

このほか千葉サイドでは中堅元売りルートで79.5円の売唱えも寄せられている。

【八潮】 前日並みの81.0～81.5円。

変わらず。新規材料を欠いている。29日出

荷分では引き続き81～81.5円で推移している。足元は有力ディーラーの一角が引き続き販売を休止中。海上の荒天に伴う転送船遅れが背景のようだ。このため現在は目ぼしい売買唱えに乏しく、複数の市場関係者が相場の膠着を指摘している。

【横浜】 前日比0.85円安の80.3～81.0円。

下落。2月渡し商談の大詰めを迎え、手持ち玉の余りが売り出されているようだ。29日渡し分では80.3～81円の出物が点在。複数のディーラーがこのレンジ内で価格提示を受けていた。

もっとも横浜出しは、川崎出し対比で買い妙味を欠くとの見方が専ら。買い手の関心は総じて精彩を欠くという。

【海上市況】 京浜は現在79円台半ばで推移している。

【東商取】 東商取4月限のバージ灯油帳入値は前日並みの82.5円。出来高はゼロ。

【在庫】 石連週報によると、直近24日時点の東日本灯油在庫は、前年同期比28.1%増の122万8,968klとなっている。

○軽油

【千葉・川崎製油所】 課税玉は前日比1.25円安の77.0～77.8円、未課税玉が同0.9円安の78.3～78.7円。

課税玉、未課税玉ともに下振れ。系列仕切り価格の下げ改定を受け、手持ち玉を残す卸業者の値下げが相次いだ。ガソリン以上の実需の鈍化を伝える声も根強く、下げ材料に敏感だった。

課税玉は、旧外資系玉ベースに地場系や広域系が77～77.5円、民族系玉を織り込んだ広域系が77.3円などを提示。買い控えていた地場などがオーダーを入れたようだ。

民族系最大手玉を取り扱う広域系も広く77.5～77.8円を提示。周辺では同社提示を意識した販価設定も多かった。

一方、取引にめどを付けた卸業者は78円台に販価を置き、関心を3月相場に切り替え済み。

未課税玉も冴えない。広域系中心に最後の玉捌きが広がり、民族系最大手玉や旧外資系玉を取り扱う複数から78.3～78.5円、78.7円の出物が寄せられた。民族系玉を取り扱う広域系は月内一巡とし、販価を79円台にとどめ、次の材料待ちとした。

千葉側で中堅元売り玉を織り込んだ出物は浮上せず。

【八潮・横浜】 八潮は様子見の80.5～81.5円、横浜は同1.1円安の78.0～78.8円。

八潮はもち合い。灯油やLSA重油同様、強風などによる転送船の乱れもあり、在庫薄と

伝えられた。広域系の一角は販価の提示を見送ったため、地場間で前日並み80.5～81.5円の売買アイデアや一部在庫玉での対応が伝えられた。

横浜は続落。製油所市況を意識した卸業者の値下げが散見。CTT玉を取り扱う卸業者

のほか、横浜ターミナル玉を含めて78～78.8円に売買唱えが点在。79円台の出物は割高とされ、関心は薄かった。

近隣の根岸界限では、78円切れの出物が地場間で伝えられている。

○重油

【千葉・川崎製油所】LSA重油は千葉が前日比1.5円安、川崎が同1.35円安の78.2～79.0円。A重油はLSA重油に対してレス0.5円で推移。

LSA重油は軟調。系列仕切り下げ改定を織り込んだ販価設定が広がりを見せた。民族系最大手玉を取り扱う広域系から78.2～78.7円、旧外資系玉をベースとする大手タンク業者からも78.7～79円の売唱えが散見。軽油同様、産業燃料向けの引き合い鈍化もあり、月の終わりまで出物が残った卸業者も多かった。

【八潮・横浜】八潮は様子見の80.5～81.0円、横浜は同1.0円安の79.5～80.5円。

八潮はもち合い。灯油や軽油同様、転送船の送りから表立っての提示は見送られた。アイデアベースや一部在庫玉として地場系から80.5～81円が伝えられ、市況を維持。

横浜は軟調。近隣製油所市況を意識し、売買アイデアベースで80円を前後する79.5～80.5円が伝えられた。

近隣の根岸地区では、79円切れの出物が複数に伝えられている。

◎中京 ○概況

製油所、9号地ともに全油種軟化した。ENEOSなど元売り各社が29日からの仕切りを実質1.8円下げた。これを受け、応分に値下げする動きが出た。残った手持ちを最終日に慌てて処分する動きも見られ、相場の圧迫要因となった。

ただし、油種によっては元売りの下げ幅ほど市況は下がらなかった。前日までに下げを織り込んでいた業者が多かったためだ。元売り月間玉、月間市況に連動した玉などはすでにコストがほぼ固まっており、下げ余地が乏しい面もあった。

3月1日からは月変わりによって売値を仕切り直し、いったん値上げし様子見に退く向きが多そうだ。すでに同日分の打ち出し価格を引き上げて通知する向きもあった。油種によっては相当程度市況が上がるとの見方が強い。

○ガソリン

製油所、9号地ともに軟化した。元売りの仕切り下げを受けた。手持ちを抱えた業者も残っており、月末まで消化売りを続ける向きも少なくなかった。ただし、月間市況に連動した玉、元売り月間玉ともコスト面で下げ余地

が乏しい。いずれの玉もおおむね131円台で仕上がるとみられており、これを下回る水準の売り物は出回りづらかった。こうしたコスト上の制約から市況の下げ幅は大きくなかった。
【製油所】前日から0.55円安の77.2～78.2円

(揮発油税込み131.0～132.0円)。

四日市では、大手商社玉の取扱い大手ディーラーが131～131.6円まで値下げした。元売りの値下げに足並みを揃えた格好だ。ただし、月間市況に連動した玉をベースになっているとみられ、下げ幅はやや抑えられた。民族系元売り玉を担いだ広域ディーラーは132円まで対応した。元売り月間玉がベースで、こちらもすでに下げ余地が乏しかった。すでに手持ちの消化を終え、スポットでショートカバーを進める業者から一定のオーダーが集まったようだ。

一部130円台半ばまでの価格対応も見られたが、こちらは買い手や引き取り可能な数量が限定されたもよう。

【9号地】 前日から0.2円安の78.0～78.5円

○灯油

製油所、9号地ともに下落した。元売りの仕切り下げを映した。暖冬による販売不振から手持ちを売り残した業者も多く、需給面でも弱さが見られた。

石油連盟の週間在庫統計から推計した週間出荷量は前年同週と比べ64.6%減少、在庫は同25%積み上がった(【在庫】欄参照)。前年実績の9割売れば御の字との見方もあった。

反面、諦めムードもあり、販売枠を返上しポジションをバランスさせる向きもあった。こうした動きもあり、元売りの下げ幅ほど市況の下げは大きくなかった。

【製油所】前日から0.85円安の79.3～80.3円。

四日市では、大手商社玉の取扱い複数ディーラーなどが79.3～80.3円まで販価を引き下げ、新たな相場を形成した。旧外資系元売り玉を扱う卸各社は79.8～80.3円まで対応し、これに追随した。民族系最大手元売り玉を取り扱う大手卸業者などは80.2～80.3円、民族系元売り玉を担いだディーラーは80.3円でそれぞれ販売した。

一部79円前後までの売り込みもあったが、

(揮発油税込み131.8～132.3円)。

商社タンク玉を取り扱う有力ディーラーなどが131.8～132.3円まで値下げした。前日までに元売りの値下げが織り込まれており、下げ幅は小さかった。地場タンク玉を扱う大手卸業者などは132～132.3円まで追随した。

【先物市況】 東商取中京ローリー4月限の帳入値は前日比横ばいの132.8円。出来高はゼロ。

【在庫】 石油連盟が28日に発表した週間在庫統計によると、24日時点の全国の在庫は前年同期比11万1,760kl(6.6%)増の180万3,404kl。同日までの1週間の生産量は前年同週比1万6,459kl(1.7%)減の95万2,925kl、輸出量は同1万465kl(7.4%)増の15万1,462kl、推計出荷量は同4万1,745kl(5.0%)減の80万354kl。

こちらは販路がやや限定的だったようだ。

愛知では、旧外資系元売り玉を取り扱う複数卸業者が79.5～79.8円、民族系最大手元売り玉を担いだ広域ディーラーなどが80～80.3円まで売値を引き下げた。販売枠の消化が終わらず、ぎりぎりまで販売に追われる向きも向けられた。

【9号地】 前日から1.0円安の79.7～80.3円。

広域タンク玉を担いだ大手卸業者が79.7～79.9円まで値下げした。在庫が潤沢とみられ販売意欲が見られた。これは、民族系最大手元売り玉を担いだ大手ディーラーが提示した79.9～80.3円の下を潜った対応だった。

一方、商社タンク玉、地場タンク玉をそれぞれ扱う複数卸業者は80円台後半～81円前後まで値下げしたが、こちらはやや価格競争力に欠けた。

【先物市況】 東商取中京ローリー4月限の帳入値は前日比横ばいの80.5円。出来高はゼロ。

【在庫】 石油連盟が28日に発表した週間在庫統計によると、24日時点の全国の在庫は前年同期比33万4,320kl(25.0%)増の167万2,932kl。

同日までの1週間の生産量は前年同週比10万3,780kl (32.5%) 減の21万5,619kl、輸出量は同

3万1,103kl 減のゼロ、推計出荷量は同26万5,917kl (64.6%) 減の14万5,550kl。

○軽油

製油所、9号地ともに下がった。元売りの仕切り引き下げに呼応し応分に値下げする動きが目についた。自動車関連工場の稼働停止の影響で、前年同月対比で販売が大きく落ち込み、在庫が積み上がっている(【在庫】欄参照)。最後まで販売枠の消化に奔走する業者も少なくなかった。

【製油所(課税)】 前日から0.75円安の77.7~78.4円。

四日市では、旧外資系元売り玉を扱う複数卸業者が77.7~78.3円まで対応し買い気を探った。これに呼応する形で、民族系最大手元売り玉を取り扱う複数ディーラーが77.7~78.4円まで値下げした。販売枠を超過した業者からの注文を集めたようだ。

一部のルートからは手持ちを持って余した業者が76円台後半~77円前後まで踏み込み月内最後の消化売りを進めたが、買い手は厳選されたようだ。

愛知では、旧外資系元売り玉を取り扱う有力卸業者が78.3円で販売を進めた。

【製油所(未課税)】 前日から0.75円安の78.5~79.4円。

四日市では、大手商社玉の取扱い大手ディ

ーラーが78.5~79円まで売値を引き下げ、引き続き市況を牽引した。四日市、愛知の民族系最大手元売り玉を担いだ広域ディーラーなどは79~79.4円まで対応しこれに対抗した。

同元売り玉を担いだ別のディーラーや、民族系元売り玉の取扱い大手ディーラーなどは79.7~79.9円で商談を進めたが、課税玉対比などで買い妙味は薄かったようだ。

【9号地】 前日から1.2円安の78.1~79.1円。

民族系最大手元売り玉を担いだ大手ディーラーなどが78.1~79.1円で販売を進めた。一方、地場タンク玉、商社タンク玉の取扱い各社は79円台半ば~81円台半ばと幅広いレンジで売り唱えたが、こちらは買い妙味は薄かった。

【在庫】 石油連盟が28日に発表した週間在庫統計によると、24日時点の全国の在庫は前年同期比33万7,493kl (27.2%) 増の157万6,961kl。同日までの1週間の生産量は前年同週比8万7,826kl (10.8%) 減の72万8,871kl、輸出量は同4万2,367kl (19.8%) 減の17万1,658kl、推計出荷量は同13万533kl (19.7%) 減の53万2,545kl。

○重油

製油所、9号地ともに下落した。元売りの仕切り下げを受け、応分に値下げが進んだ。海上出荷停滞による陸上市場への余剰玉の還流も続いており、需給面でも弱さが見られた。

海上転送遅れなどが原因で一時的に品薄状態に陥っていた9号地ではタンクへの入荷が行われたとみられ、複数タンクで出荷が再開した。需給が急速に緩和し、相場が急落し

た。

【製油所(LSA重油)】 前日から1.65円安の78.2~79.0円。

四日市では、大手商社玉の取扱い地場ディーラーなどが78.4~79円まで値下げし、販売枠の消化売りを推し進めた。

四日市、愛知では、民族系最大手元売り玉を担いだ広域ディーラーが78.2円まで対応した。海上の販売不振で余剰玉が残り売り込

みを継続したようだ。これは相当程度割安に映り複数業者からオーダーが集まったようだ。

旧外資系元売り玉を取り扱う大手卸業者などは78.8～79円でこれに追随した。

【製油所(A重油)】前日から1.65円安の77.7～78.5円。

【9号地】前日から2.75円安の79.5～80.5円。

民族系最大手元売り玉を担いだ広域ディーラーなどが出荷を再開し79.5～80.5円で広く出物が流通した。前日まで品薄で出荷を止めていた業者が多かった。

商社タンク玉を扱う有力ディーラーなど

も出荷を再開し81円前後～81円台前半で売り唱えた。ただし、元売り玉と比べ割高に映った。

地場タンク玉を扱う大手卸業者は販売休止中だ。在庫の積み上げが遅れているもよう。

【在庫】石油連盟が28日に発表した週間在庫統計によると、24日時点の全国のLSA重油在庫は前年同期比4万6,741kl(16.2%)増の33万5,027kl。同日までの1週間の生産量は前年同週比5,185kl(4.2%)減の11万8,966kl、輸出量は前年同週同様にゼロ、推計出荷量は同2万8,199kl(25.5%)減の8万2,225kl。

◎阪神

○概況

スポット市況は製油所出しが全油種で弱含み。ENEOS、出光興産、コスモ石油マーケティングが28日、29日～3月6日出荷分に適用する仕切り価格を実質的に1.8円引き下げたのを反映した。もっとも白油を中心に下げ足は緩やか。前日までの市況が先行して下げていた反動が表れている。月末を前にディーラー各社の月次枠消化が進んでいるのも下げ幅を抑えた一因だ。

○ガソリン

【堺製油所】前日から0.1円安の77.4～78.4円(揮発油税込み131.2～132.2円)。

小幅続落。2月渡し商談の最終取引日を迎え、自社玉を残すディーラーが売りに出ている。また現在のスポット市況は仕切り価格対比で割安との見方が大勢。3月渡し商談への移行を機に足元の売り圧力は消え、相場もいったん切り上がるとの観測が流れる。このため値下げによる仮需の困り込みに期待を寄せる売り手も一部見られた。

ただ、小売需要の伸び悩みなどが響き、当初期待ほどの仮需は生じなかったと複数の市場関係者が指摘している。

全体的に地合いの弱い展開とはいえ、中間留分と比較すればガソリンの売り圧力は限定的だ。月次枠を消化済みのディーラーが積極的な取引を手控えているためだ。多少の販売

余力を残しつつも、蔵取りの販売は見送るディーラーも散見。蔵取りは持ち届けと比較し値段次第で「想定外のオーダーが集まること」があり、受注量が読みにくい(卸業者)ことが影響している。

29日出荷分では中堅元売り玉を扱う卸業者らが131.2～132円程度で打ち出している。水面下では131.2円を割り、131円に迫るような売りが一部生じた節もある。また民族系元売りルートでは131.6～132.2円の売唱えが点在。前日に引き続き132円超えの荷動きも一部伝わり、市中では132.2円の売唱えが書面ベースで手当て可能との声も複数寄せられている。

元売りの市中調達は表面化しなかった。民族系大手元売りも模様眺めを貫いている。

【油槽所】前日から横ばいの77.7～78.5円(揮発油税込み131.5～132.3円)。

もち合った。2月渡し商談が一巡している。堺ターミナル出しでは131.5～132.3円を維持。132.3円超えは相対的に高値と映りやすかった。櫻島ターミナル出しは引き続き様子見。持ち届け中心の出荷を保っているようだ。在庫玉を扱う売り手の間では、すでに3月渡し取引へ関心を移行済みのケースもありそうだ。3月渡し商談への切り替えを境にスポット市況がいったん切り上がるとの想定があるためだ。

【**届け市況**】EX換算131円台半ば～132円台前半の出物が残った。量販店向けを中心とする安値圏では一部同131円台前半の取引も見え

隠れ。ただ、広く売られた様子は窺えなかった。

【**東商取**】東商取4月限の帳入値はバージが前日と同じ81円(揮発油税込み134.8円)、中京ローリーも前日並みの79円(同132.8円)。

【**海上市況**】西日本は現在80円程度で推移している。

【**在庫**】石連週報によると、直近24日時点の西日本ガソリン在庫は前年同期比4%減の73万4,216kl。同週報から推計した18～24日の西日本ガソリン出荷は、前年同週比0.1%増の32万5,122klとなっている。

○灯油

【**堺製油所**】前日比0.6円安の79.8～80.3円。

下振れ。元売り各社の系列仕切り引き下げを受け、販価を見直す卸業者が多かった。もっとも、2月商談最終日となり、すでに一線から退く、関心を3月相場に向け済みの卸業者も散見された。

市場では、旧外資系玉をベースとした広域系が79.8～79.9円で売りを提示。水面下ではもう一段踏み込んだ出物も見え隠れしたものの、詳細は判然とせず。これらを手当てた卸業者が80～80.3円で売唱え、ないしは転売に動いた。

月変わり最初の週末に関西地区はやや肌寒い予報が出されたが、降雪や積雪などを伴う戻り寒波までには至らないようだ。80.5～81円にかけて出物も散見されたが、関心や実際の動意を伝える声は極めて限られた。

【**油槽所**】様子見の80.5～81.0円。

前日水準を維持。四国の中堅元売り玉を取り扱う卸業者間ではほぼ取引が一巡。月内枠もおおよそ整理されたとし、様子見に

退く卸業者が多かった。堺ターミナルでは売買アイデアを含め前日並み80.5～81円の売唱えが残り、3月相場待ち。

櫻島ターミナルでも大手タンク業者は様子見に徹し、81円台で3月相場に移行した。

【**東商取**】バージ3月限の灯油は82.5円で日中取引を終了。中京ローリー3月限は80.5円で終えた。

【**輸入実績**】貿易統計によると、1月に輸入された灯油は29万3,179klだった。うち関西地区には、大阪港に530kl、和歌山港に195kl、関西空港に5klと、少量にとどまった。需要地の苫小牧港には9万6,795klが荷揚げされている。

○軽油

【**堺製油所**】課税玉が前日から0.3円安の77.7～78.5円、未課税玉が同0.8円安の79.8～80.0円。

課税玉、未課税玉ともに弱含み。2月渡し商談の大詰めを迎え、手持ち玉を残す卸業者が

売り込んでいる。月末とあり月次枠消化にめどを付けたディーラーの間では売りから撤退する動きはあったものの、最終的に需給の逼迫感は生じなかった。中国経済の鈍化に伴う

コンテナ輸送向けなどの実需が伸び悩んだことなどが響いたようだ。

課税玉の29日期限では旧外資系元売りルートで77.7~78円程度の売りが伝わる。市場関係者によると、同元売り玉は前日まで価格競争力の面で他のルートの玉の後塵を拝していたものの、この日の仕切り価格実質引き下げを機に競争力が息を吹き返しているという。水面下では77.7円切れの取引が始まった形跡もある。

また民族系元売りルートでは78.1~78.5円の出物が点在。四国の中堅元売りルートでも78.5円の売り物があった。

買い手の関心は相対的に安価な78円割れに向かいやすい状況ながら、出荷地指定の取引などでは78円超えの商談もちらほら。

ただ、78.5円超えの荷動きは鈍そうだ。足元は軽油を得意とする複数のディーラーが月次枠消化の終了で市場から離脱済みと伝わる一方、これまで価格面で競り負け浮遊玉を残していたディーラーの売りが戻り、最終的に複数の市場関係者が上値の重さも指摘していた。

未課税玉は29日渡し分が79.8~80円で推移している。民族系元売りの製油所出荷玉を中

心に80円以下で複数のディーラーが売唱えを受けていた。足元は課税玉との価格乖離が継続。それでも未課税玉で課税玉と張り合うような売りは依然聞かれなかった。京浜、中京で売り込んだディーラーも阪神地区における蔵取りの販売は手控えているようだ。

【油槽所】 前日から0.2円安の78.5~79.5円。

軟化。製油所出しの相場下落が響いた。29日渡しの堺ターミナル出しは課税玉が78.5~78.7円で推移。79.5円超えの課税玉に興味を示す買い手は見当たらない。足元は製油所出しが相対的に安く、油槽所玉に対する買い手の関心は薄れがち。

ただ、油槽所ではすでに浮遊玉の整理が進んでおり、製油所出し対比の高値設定を堅持する卸業者が専らだ。

【海上市況】 西日本は現在82円台半ばで推移している。

【在庫】 石連週報によると、直近24日時点の西日本軽油在庫は、前年同期比46.7%増の73万1,035kl。同週報から推計した18~24日の西日本軽油出荷は、前年同週比18.4%減の21万47klとなっている。

○重油

【堺製油所】 A 重油が前日から1.35円安の78.2~78.9円、LSA 重油は同1.35円安の78.7~79.4円。

続落。仕切り価格の実質引き下げが響いた。週次コストに連動する玉を扱うディーラーを中心に値下げが出ている。もっとも前日時点の市況が先行して崩れていた反動により、スポット市況は仕切り改定幅対比の満額下落には至らなかった。すでに月内商談を手仕舞い、市場を静観するディーラーも複数いた。

LSA 重油の29日出荷分では旧外資系元売り玉を扱うディーラーが78.7~79円で打ち出し

ている。民族系元売りルートでは79.4円の出物が点在。他社玉の転売で販価を組み立てた複数のディーラーは78.5円以上で売り出しており、この日は複数の卸業者が79.4円以下で見積もり提示を受けた様子がある。水面下では78.7円切れの商談も進んだようだ。ただ、販路は限られていたもよう。

A 重油はLSA 重油比0.5円安で推移している。

【海上市況】 西日本は現在 A 重油が79円台後半、LSA 重油が80円台前半となっている。

【在庫】 石連週報によると直近24日時点の西日本重油在庫は、A 重油が前年同期比12.6%減

の12万6,774kl、LSA 重油が同15.9%増の12万260kl。同週報から推計した18～24日の西日本重油出荷は、A 重油が前年比3.5%減の4万

5,770kl、LSA 重油が35.1%減の2万9,083kl となっている。

◎四国 ○概況

重油が弱含み。ENEOS や出光興産、コスモ石油マーケティングは、29日渡し分から適用する仕切り価格を実質1.8円引き下げると通知した。ただ、この日は2月商談の最終日で、前もって値下げに動いた業者が多く、応分の値下げとはならなかった。

一方で、軽油は上昇。月次販売枠の消化にめどを付けた一部の業者から販売休止や販価を切り上げる動きが出ており、スポット市況は上振れした。

○ガソリン

前日と同じ78.7～79.3円（揮発油税込み132.5～133.1円）。

横ばい。販売枠の消化具合によって、小幅ながらの上げ下げが見られたが、前日のアセスメントレンジの中央値は変わらなかった。

【坂出】29日渡し分までを対象に、民族系元売り玉を扱う業者や他社玉を担いだ業者などは132.5～133.1円に販価を寄せてきている。前日132円台後半を提示した業者は132.5円に値下げし、最後の売り込みを図った。

一方で、前日132.4円を売り唱えた業者は133円付近に値上げするなど、上げ下げが混在している状況だ。足元では133.1円までの販価に厚みがあるため、133.1円を超えると動意が限られるようだ。

また、水面下の個別交渉では「132円で売りに応じる業者もいる」（地場系）との声が寄せられた。

【菊間】四国の中堅元売り玉を扱う業者は132円を提示したが、こちらの玉は主流ではないようだ。

【水島】民族系元売り玉を扱う業者などは132.5円に値上げ。ただ、132円台では買い気が鈍いもよう。依然として、坂油槽所や岡山オイルターミナル出しの小売業者向けの玉に割安感があるという。「EX パイプに換算し、130.8円の売り物が流通している様子がある」（商社系）との声が聞かれた。

○灯油

前日と同じ80.1～80.6円。

もち合った。月内最終営業日を迎えるなか、前日並みの水準で最後の売り込みが続いている。

【坂出】29日渡し分までを対象に、民族系元売り玉を扱う業者や民族系最大手元売り玉を扱う業者などは80.1～80.6円の販価を維持した。80.6円以上の売り物も散見されるが、買い手が興味を示すのは80.6円までのようだ。

【菊間】四国の中堅元売り玉を扱う業者は80.6円に値下げし、受注喚起を図っている。

【水島】民族系最大手元売り玉を扱う業者や他社玉を担いだ業者などは79.3～79.5円に見積もりを下方修正し、最後の売り込みを強めた。「29日渡しの限定価格になる可能性がある」（商社系）との声が寄せられた。

○軽油

前日比0.5円高の79.0～79.5円。

上昇。安値圏では販売枠の消化にめどを付けた業者が値上げに動いたため、スポット市況は切り上がった。

【坂出】課税玉では29日渡し分までを対象に、民族系元売り玉を扱う業者や他社玉を担いだ業者などは79～79.5円を売り唱えた。複数の業者から79.5円までの玉を手当て可能なため、79.5円を超えると動意が薄いもよう。一部では、「手持ち玉の消化ができていないが、2月商談も残り1日で安くしたところで出荷量は増えると思えない」（商社系）と、販売枠の消化にあきらめの声も聞かれた。

未課税玉では、民族系最大手元売り玉を扱う業者や旧外資系元売り玉を扱う業者などから79.9～82.9円の玉が調達可能となっている。

【菊間】課税玉では、四国の中堅元売り玉を扱う業者などが78.6円の販価を維持し、買い気を探った。ただ、こちらの玉は一般的な売り物ではないとの指摘があった。

【水島】課税玉では、民族系大手元売り玉を扱う業者や他社玉をベースに組み立てた業者などが78.2～78.4円に値下げ。これらの価格帯であれば、「売れ行きは好調」（商社系）との声が聞かれた。

○重油

A 重油が78.8～79.3円、LSA 重油が79.3～79.8円といずれも前日比0.45円安。

下落。主要元売りが29日以降に適用する仕切り価格を1.8円引き下げたことを受け、値下げに動く業者が散見された。このため、スポット市況は軟化した。ただ、先安を織り込んだ業者などが28日渡しまで積極的に販売枠の消化を進めており、応分の値下げとはならなかった。

【坂出】A 重油では29日渡し分までを対象に、民族系最大手元売り玉を扱う業者や民族系元売り玉を扱う業者などは78.8～79.3円の売唱え。

LSA 重油は79.3～79.8円。A 重油、LSA 重油

ともこれらの価格帯に該当しない提示もあったが、積極的にやり取りされた様子は窺えなかった。

【菊間】A 重油では、民族系最大手元売り玉を扱う業者や他社玉を担いだ業者などが78.8円を提示し、受注喚起を図っている。LSA 重油はA 重油に比べ0.5円高で推移。

【水島】A 重油では、民族系最大手元売り玉を扱う業者や複数の仕入れ先を持つ業者などは77.7～77.9円と、前日から1円程度販価を切り下げ、売り込みを強めた。「月が変われば見積もりが切り上がる可能性もある」（商社系）との声が寄せられた。LSA 重油は0.5円高。

◎九州（福岡）

○概況

スポット流通玉市況は全面安。主要元売り3社の29日から適用される仕切りは実質1.8円の引き下げ。これに対して2月分の消化目的の売り、6日までコストが確定している卸業者を中心に下値で買い気探りを始めていた。白油は消化目的の売りが相応に残ったため、むしろ1日渡しからは唱えを切り上げる動きが出るかに関心を寄せている同業他社も多かった。

JONET小倉ではLSA重油が転送遅れのため、出荷規制が敷かれている。複数の市場関係者が伝えた。

○ガソリン

【福岡】78.4～79.0円（揮発油税込み132.2～132.8円）と前日比0.75円安。

東浜出荷玉で手持ちの重いディーラーが下値を探っていた。29日期限では132.2～132.8円など、132.5円を挟んだ水準で買い気を探る動きが複数で出ていた。手持ち消化を進めたディーラーは取引から退いており、133.5円以上を唱えているケースもあった。一方、西戸崎出荷、荒津出荷玉を扱う卸業者はおおむね様子見に退いており、133.3円以

上と相対的に一段高の唱えが伝えられるにとどまった。もっとも、北九州出荷玉では132円前後の売りが台頭しており、東浜出荷玉で売り気を示すディーラーはこの水準の出物の流通を無視できない側面もあったようだ。

【他地区】宇部出荷玉を扱うディーラーは132円前後の唱えを維持。北九州出荷玉を扱うディーラーの唱えは132円前後～133円前後と132.5円を挟んだまちまち。八代は135円台前半。佐世保では135円前後のまま。

○灯油

【福岡】81.0～81.5円と前日比0.9円安。

東浜、西戸崎、荒津出荷ともに、2月販売で苦戦して29日期限でオーダーを取り込もうとしている複数ディーラーが81～81.5円など、81円台前半中心に売り気を示した。他方、すでに手持ち消化を終えて静観しているディーラーは82円前後～83円前後など、一段

高の唱えで様子見に徹していた。

【他地区】宇部の複数ディーラーの唱えは80円台前半～80.5円前後。北九州、八代は81円前後～81.5円前後。佐世保は82円前後。総じて暖冬による実需不振を背景に売り気を示すディーラーが下値を探っている。

○軽油

【福岡】79.5～80.0円と前日比1.3円安。

西戸崎出荷玉、東浜出荷玉を扱うディーラーの課税の29日期限の唱えは79.5～80円以上。未課税玉を扱うディーラーの唱えは東浜、西戸崎、荒津ともに81円前後～81.5円前後。新規動意は閑散としているなか、値ごろ感のある課税玉で少数が食指を動かしているにとどまった。

【他地区】宇部のディーラーの唱えは課税で

78.5円前後のまま。一方、小倉、八代の唱えは79.5円前後～80円台前半と福岡同様に売り気を示すディーラーが下値を探っていた。

【官公需入札】3月納めの市バス向け入札では、22日に開札された鹿児島市交通局向け60klは、届け124.0円で大盛産業が落札。26日に開札された宇部市交通局向けの62klは、届け113.9円でNX商事が落札した。

○重油

【福岡】A重油は79.6～80.0円、LSA重油は80.1～80.5円といずれも前日比1.7円安。

A重油は西戸崎出荷玉、荒津出荷を扱う複数ディーラーの29日期限の唱えは79.6～80円以上。LSA重油は0.5円高の唱えが主流。引き続き、消化や実績を優先した卸業者では西戸崎出荷、荒津出荷玉ともに79.6円まで買い

気を探るディーラーが残存した。

産業用燃料にかかわる複数の市場関係者によると、九州各地の4月納め以降の商流の変化に関心を寄せる向きが増えている。福岡ではこれまで西戸崎出荷玉は基地格差が相対的に安価で優位性があったが、4月以降は荒津出荷とほぼ同水準となる。このため、需

要家へのコスト転嫁などがどのように進むのかが関心事であるようだ。

は宇部が78.5円前後。小倉が80円台前半、八代が80円前後。

【他地区】複数ディーラーの29日期限の唱え

◎マーケットニュース

○ENEOS=山口リソース&パワーカンパニー電気事業部長が社長に昇格

ENEOSは28日開催の取締役会で山口敦治リソース&パワーカンパニー電気事業部長の社長昇格人事を内定した。就任は4月1日付。

山口新社長は1994年三菱石油入社。2019年JXTGエネルギー和歌山製油所長、2021年ENEOS製造部長、2023年執行役員リソース&パワーカンパニー電気事業部長。神奈川県出身。東大大学院卒。

○ENEOS=「広域販売部」を廃止、「広域支店」を立ち上げ

ENEOSは来期の組織体制として「広域販売部」を廃止し、「広域支店」の立ち上げ方針を固めた。広域特約店や販売子会社の支店業務を集約し、関連事業の権限や責任を明確化するため支店を新設する。兵働毅中国支店長が広域支店長に就く人事も内定した。

また、販売部門全体を巻き込んだDX推進として「販売DX推進室」を新設する。笠井靖隆販売計画グループマネージャーが販売DX推進室長に異動する予定だ。

○ENEOS=29日以降の基準価格、全油種で引き下げ

ENEOSは28日、29日～3月6日出荷分に適用する系列向け基準価格を前週から実質1.8円引き下げると関係各社に通知した。実質引き下げは4週ぶり。複数の市場関係者によると、コストベースの基準価格は前週比で1.5円の下げに対し、同週支給の補助金単価は21.6円と、前週から0.3円増額されたため、結果的に実質仕切り価格は1.8円の下げとなった。前週15～21日の仕切り価格は実質1.6円の上げだった。

○出光興産=2月29日以降の仕切り価格を通知、実質引き下げ

出光興産は28日、29日～3月6日出荷分に適用する仕切り価格を全油種でリットルあたり実質1.8円引き下げると通知した。原油コストは前週から1.5円の引き下げ。同期間の燃料油補助金は同0.3円増額の21.6円となった。この日はENEOS、コスモ石油マーケティングも22日以降の仕切り価格について、関係各社に実質1.8円の引き下げを通知している。

○コスモ石油マーケ=2月29日以降の基準価格、実質引き下げ

コスモ石油マーケティングは28日、29日～3月6日出荷分に適用する基準価格を全油種で実質的に1.8円引き下げると、特約店に通知した。

原油コストを元に算出した基準価格は前週比1.5円の引き下げ。また燃料油補助金が21.6円と前週から0.3円増額されたため、実質的な仕切り価格は前週から1.8円の引き下げとなった。

ENEOSもこの日、同期間の仕切り価格について実質1.8円引き下げを通知した。

○貿易統計速報=2月上旬の原油CIF価格、前旬比608円高

財務省が28日に発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、2月上旬の原油・粗油輸入平均CIF価格(JCC)はキロリットル(kl)あたり78,118円と、1月下旬比で608円上昇した。1月平均比では469円高い。

2月上旬の通関量は1月下旬比12万3,000kl減の436万4,000kl。同上旬の為替レートは1ドル=147.63円だった。1月のJCC速報値は77,649円に上方修正された。一方、2023年12月の同確報値は83,476円で変わらなかった。

○ガソリン小売市況=2月26日のRG全国平均、7週ぶりに上昇

資源エネルギー庁が28日に公表した給油所の週間市況調査によると、26日時点のレギュラーガソリン(RG)の全国平均小売価格は、前週から0.4円高の174.7円。7週ぶりに値上がりした。ハイオクガソリンは同0.4円高の185.5円だった。

元売り各社は22~28日の仕切り価格を実質的に1.6円引き上げた。仕切り価格の引き上げは3週連続。また大幅な引き上げとなったため、小売市況に上昇圧力が掛かった。ただ、3連休も天候不順で売れ行き不発の声が多数。販売不振に拍車が掛かり、小幅な値上げにとどめたり、値下げに動いたりする小売業者もいたようだ。

都道府県別の動向は値上がりが29都府県に対し、値下がりが13道県、横ばいは5府県。

沖縄県を除く都道府県別のレギュラーガソリン最安値地区は、10週連続で徳島県。前週比1.4円高の166.8円だった。対する最高値は長野県の184.5円で、前週から0.2円切り上がった。

軽油は前週比0.4円高の154.4円、灯油は同0.2円高の116.8円、18リットルあたり2,103円だった。

都道府県別・石油製品市況週動向調査=2024/02/26

	ハイオク		レギュラー		軽油		灯油(店頭)	
		前週比		前週比		前週比		前週比
全国平均	185.5	+0.4	174.7	+0.4	154.4	+0.4	2,103	+4
北海道局	185.3	-0.3	174.0	-0.2	156.9	+0.3	2,153	+6
青森	180.4	-0.1	169.1	-0.4	150.8	+0.2	2,041	+8
岩手	180.6	+0.7	169.8	+0.7	149.9	+0.8	1,990	+6
宮城	180.6	-0.5	169.6	-0.4	149.8	-0.8	1,986	-16
秋田	181.9	-0.2	170.8	-0.2	154.2	0.0	2,041	+2
山形	193.5	+0.5	182.6	+0.5	164.7	-0.2	2,042	+9
福島	187.6	+0.4	176.7	+0.6	156.7	+0.5	2,053	+2
東北局	183.7	-0.1	172.7	-0.1	153.9	-0.1	2,023	0
茨城	182.0	+0.4	170.9	+0.4	148.6	+0.6	1,999	+4
栃木	184.6	+0.1	173.5	+0.1	151.3	+0.1	2,067	+2
群馬	186.3	+1.2	175.1	+1.2	153.9	+1.0	2,077	+7
埼玉	181.7	+1.4	170.8	+1.4	148.1	+1.1	2,058	+16
千葉	181.5	+0.4	170.7	+0.4	149.1	+0.1	2,082	+2
東京	184.1	+0.8	176.1	+0.8	157.3	+0.9	2,247	+12
神奈川	182.7	+0.6	171.8	+0.6	149.0	+0.6	2,088	+4
新潟	182.1	+0.1	170.9	0.0	153.8	0.0	2,099	+11
長野	195.7	+0.3	184.5	+0.2	165.8	+0.2	2,086	+5
山梨	184.2	+0.6	173.0	+0.6	151.6	+0.7	2,040	+5
静岡	186.9	+0.2	175.8	+0.2	154.8	0.0	2,163	+11
関東局	184.7	+0.6	174.1	+0.6	153.3	+0.6	2,102	+8

愛知	183.2	+1.4	172.0	+1.6	152.5	+1.6	2,107	+8
岐阜	187.8	+0.4	176.6	+0.5	155.4	+0.7	2,085	+2
三重	184.5	+0.8	173.2	+0.7	154.3	+0.8	2,088	+3
富山	187.0	+0.9	175.8	+1.1	158.3	+0.7	2,120	+7
石川	187.7	-0.1	177.2	0.0	154.3	0.0	2,067	-3
中部局	185.9	+0.8	174.8	+0.8	155.0	+0.8	2,096	+4
福井	188.0	0.0	176.7	0.0	156.1	-0.1	2,094	+3
滋賀	182.7	+0.1	171.6	+0.1	150.9	+0.2	2,098	+3
京都	187.2	+0.4	176.0	+0.4	153.7	+0.2	2,134	-3
奈良	182.9	+0.2	171.9	+0.3	150.7	+0.2	2,039	+4
大阪	184.6	+0.1	173.3	0.0	151.7	+0.6	2,088	+6
兵庫	181.2	-0.2	170.2	-0.2	149.0	-0.2	2,023	+1
和歌山	184.2	+1.6	173.4	+1.4	151.2	+1.6	2,075	+24
近畿局	184.3	+0.3	173.1	+0.2	151.7	+0.4	2,078	+6
鳥取	189.4	+1.3	178.3	+1.3	162.9	+1.1	2,208	+16
島根	188.4	+0.1	177.1	+0.1	158.7	0.0	2,193	-1
岡山	181.9	-0.4	171.1	-0.3	150.2	-0.3	2,067	+2
広島	184.8	-0.5	174.0	-0.4	155.4	-0.5	2,125	+1
山口	183.0	+0.1	172.3	-0.1	153.7	+0.1	2,058	-1
中国局	185.2	0.0	174.3	0.0	155.8	-0.1	2,124	+1
徳島	177.1	+1.3	166.8	+1.4	141.8	+1.1	1,967	+4
香川	184.3	0.0	173.0	-0.1	152.8	0.0	2,055	-1
愛媛	188.0	+1.6	177.2	+1.5	156.4	+1.6	2,169	+17
高知	189.1	-0.1	179.0	0.0	156.9	0.0	2,079	+5
四国局	185.2	+0.8	174.6	+0.8	152.6	+0.9	2,075	+11
福岡	187.1	+0.6	175.7	+0.5	154.4	+0.6	2,095	+11
佐賀	187.0	-0.6	176.1	-0.5	156.5	-0.2	2,133	-11
長崎	193.3	-0.7	183.4	-0.5	163.9	-0.4	2,192	-1
熊本	185.0	+0.3	174.0	+0.2	151.2	+0.3	2,097	0
大分	193.0	+0.4	182.1	+0.3	159.4	+0.2	2,180	+10
宮崎	190.1	-0.1	179.2	-0.1	157.9	-0.1	2,209	-1
鹿児島	193.4	-0.4	181.5	-0.4	164.1	-0.3	2,269	-14
九州局	190.0	+0.1	179.0	0.0	158.4	+0.1	2,174	+1
沖縄局	184.9	+0.4	178.5	+0.9	157.9	+0.5	2,493	-9
九州沖縄局	189.5	+0.1	179.0	+0.2	158.4	+0.2	2,194	-4

出所：資源エネルギー庁

調査対象は約 2,000 店。ガソリン、軽油は円/ℓ、灯油は店頭 18 ℓ。現金ベース。

○原油・石油製品供給統計週報=<石油連盟全国>

	今週	前週	前週比
	2/18~24	2/11~17	
製油所稼働状況			
週間原油処理量(kl)	2,765,740	2,655,588	110,152
週間トッパー実稼働能力(b/d)	2,839,300	2,731,443	107,857
週間トッパー実稼働率	87.5%	87.4%	0.1
週間トッパー設計能力(b/d)	3,230,400	3,230,400	0
週間トッパー設計能力稼働率	76.9%	73.9%	3.0
石油製品週末在庫			
ガソリン	1,803,404	1,802,295	1,109

ナフサ	1,241,808	1,202,555	39,253
ジェット燃料油	750,427	755,151	-4,724
灯油	1,672,932	1,602,863	70,069
軽油	1,576,961	1,552,293	24,668
LSA 重油 (S 分 0.1%以下)	335,027	298,286	36,741
HSA 重油 (S 分 0.1%超)	421,710	409,817	11,893
A 重油計	756,737	708,103	48,634
LSC 重油 (S 分 0.5%以下)	676,670	688,519	-11,849
HSC 重油 (S 分 0.5%超)	1,167,900	1,169,686	-1,786
C 重油計	1,844,570	1,858,205	-13,635
合計	9,646,839	9,481,465	165,374

原油・半製品・装置原料週末在庫

原油	10,556,443	11,062,990	-506,547
粗ガソリン	2,073,920	2,248,616	-174,696
粗灯油	342,447	290,101	52,346
粗軽油	773,047	830,273	-57,226
粗 A 重油	450,511	451,954	-1,443
装置原料	2,732,993	2,750,605	-17,612
合計	6,372,918	6,571,549	-198,631

石油製品生産量

ガソリン	952,925	842,829	110,096
ナフサ	366,290	209,581	156,709
ジェット燃料油	226,791	246,068	-19,277
灯油	215,619	250,801	-35,182
軽油	728,871	654,617	74,254
LSA 重油 (S 分 0.1%以下)	118,966	107,825	11,141
HSA 重油 (S 分 0.1%超)	97,742	116,771	-19,029
A 重油計	216,708	224,596	-7,888
LSC 重油 (S 分 0.5%以下)	119,250	137,888	-18,638
HSC 重油 (S 分 0.5%超)	136,665	111,008	25,657
C 重油計	255,915	248,896	7,019
合計	2,963,119	2,677,388	285,731

石油製品輸入量

ガソリン	n. a.	n. a.	-
ナフサ	n. a.	n. a.	-
ジェット燃料油	n. a.	n. a.	-
灯油	n. a.	n. a.	-
軽油	n. a.	n. a.	-
LSA 重油 (S 分 0.1%以下)	n. a.	n. a.	-
HSA 重油 (S 分 0.1%超)	n. a.	n. a.	-
A 重油計	n. a.	n. a.	-
LSC 重油 (S 分 0.5%以下)	6,410	0	6,410
HSC 重油 (S 分 0.5%超)	0	0	0
C 重油計	6,410	0	6,410
合計	n. a.	n. a.	-

石油製品輸出货量

ガソリン	151,462	104,024	47,438
ナフサ	0	0	0

ジェット燃料油	149,376	116,062	33,314
灯油	0	0	0
軽油	171,658	84,494	87,164
LSA 重油 (S 分 0.1%以下)	0	0	0
HSA 重油 (S 分 0.1%超)	0	0	0
A 重油計	0	0	0
LSC 重油 (S 分 0.5%以下)	68,854	72,533	-3,679
HSC 重油 (S 分 0.5%超)	60,260	41,840	18,420
C 重油計	129,114	114,373	14,741
合計	601,610	418,953	182,657
単位: kl			
「n. a.」は現時点でサンプル数が少ないため発表対象外			

○石油製品の推定週間出荷量(内需) 全国

	2024/2/18~2/24		前週比		前年比(2/19~2/25)	
	出荷量(kl)	日量平均(kl)	%	kl	%	kl
ガソリン	800,354	114,336	+2.9	+22,725	-5.0	-41,745
ナフサ	-	-	-	-	-	-
ジェット	82,139	11,734	-34.7	-43,692	n. a.	n. a.
灯油	145,550	20,793	-42.9	-109,509	-64.6	-265,917
軽油	532,545	76,078	-6.3	-35,796	-19.7	-130,533
LSA 重油	82,225	11,746	-22.2	-23,414	-25.5	-28,199
HSA 重油	85,849	12,264	-14.6	-14,673	-30.7	-38,082
A 重油計	168,074	24,011	-18.5	-38,087	-28.3	-66,281
LSC 重油	68,655	9,808	+11.6	+7,146	+14.2	+8,522
HSC 重油	78,191	11,170	+15.3	+10,391	-36.4	-44,679
C 重油計	146,846	20,978	+13.6	+17,537	-19.8	-36,157
合計	1,875,508	267,930	-9.1	-186,822	-18.7	-430,780
石油連盟週報から推計 合計にナフサは含んでいない						
当該週出荷=前週末製品在庫+当該週生産+当該週輸入-当該週輸出-当該週末製品在庫						

◎お知らせ

○PRA原則遵守に関する検証報告書の公開

リム情報開発は2023年12月20日、証券監督者国際機構(IOSCO)により定められた石油価格報告機関(PRA)に対する原則の遵守に関しまして、合理的保証に基づく検証報告書をウェブで公開しました。当社が発刊する全ての日刊レポートが対象となります。

<対象レポート>バンカーオイル、原油・コンデンセート、アジア石油製品(Products)、LPG、ローリーラック、ジャパン石油製品、石油化学、LNG、電力

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/pramenu4/>

○電力データCD・2022年度版の販売開始について

リム情報開発は、電力入札データの2022年度版CDを、7月18日から販売を開始します。初版となる2014年度版のリリース以来、各方面からご好評をいただいております電力入札データの2022年度版となります。最新版では、2022年4月から2023年3月までの1年間に、全国の公共機関が公募した電力調達について、詳細な情報を提供いたします。2022年度版は、収集件数4,165件(昨年度4,583件)で、

うち比較可能なデータは956件(同3,230件)です。

※「比較可能データ」：予定供給量、契約電力、契約金額がそろった案件を集計(入札不調、入札条件が不明などの案件は除外)

関連記事

<https://www.rim-intelligence.co.jp/news/news-domestic/1749466.html>

お申込みはこちらへ

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contact/form/powerData.html?2020>

〇バイオマスレポート英語版発刊のお知らせ

リム情報開発が発行するバイオマスレポート(週刊)の英語版が好評です。日本や韓国など北東アジアでも発電燃料として需要が高まっている木質ペレットやPKSといったバイオマス燃料に関する情報を、海外のご購読者にもお届けいたします。

- 木質ペレットとPKSの東南アジア積み価格とマーケットコメント
- 木質ペレットの北米積み価格とマーケットコメント
- 木質ペレットとPKSの日本着価格とマーケットコメント
- 木質ペレットとPKSのフレートとマーケットコメント
- 日本や韓国の需要家による買付け入札情報

内容のお問い合わせ、購読のお申込みは、リム情報開発バイオマスチームへ

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/biomassEnglishJp/>

Tel: 03-3552-2411

Email: info@rim-intelligence.co.jp

◇弊社ウェブサイトURLは www.rim-intelligence.co.jp

◇リム価格は登録商標です。登録番号は第5387777号。

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧

[東京本社]

Tel:03-3552-2411, Fax:03-3552-2415

e-mail: info@rim-intelligence.co.jp

[シンガポール支局]

Tel: 65-6912-7359

e-mail: lim@rim-intelligence.co.jp

[北京支社]

Tel: (86)10-6498-0455, Fax: (86)10-6428-1725

e-mail: guan hong@rimbj.com

[上海支社]

Tel: (86)-21-6760-6330, e-mail: rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2024 RIM INTELLIGENCE CO.

お申し込み >

試読 >